

WHO ファクトシート

女性に対する暴力

女性に対する親密なパートナーからの暴力及び性的暴力

Violence against women

Intimate partner and sexual violence against women

2016 年 11 月

重要な事実

- ・女性に対する暴力、とくに親密なパートナーからの暴力や性的暴力は、公衆衛生上の大きな問題であり、女性の人権への侵害である。
- ・WHO 発行の世界推計によると、世界の女性の約 3 人に 1 人 (35%) が親密なパートナーからの身体的又は性的な暴力、もしくは非パートナーからの性的暴力のいずれかを経験している。
- ・この暴力の大半は親密なパートナーからの暴力である。世界的に、パートナー関係を経験している女性の約 3 分の 1 (30%) は、パートナーからのなんらかの身体的又は性的暴力をその生涯の内に経験したとみられる。
- ・世界的には、女性に対する殺人事件の 38% 近くは親密パートナーによるものである。
- ・暴力は、女性の身体、精神、性と生殖に関する健康に悪影響を及ぼし、HIV 感染への脆弱性を高める可能性がある。
- ・暴力の加害者となるリスクを高めることにかかわる要因としては、教育程度が低いこと、児童虐待や家庭内での暴力を経験したこと、アルコールの乱用、暴力やジェンダー不平等を容認する態度などがある。
- ・パートナーからの暴力や性的暴力を受けるリスクを高めることにかかわる要因としては、教育程度が低いこと、両親間の暴力を目撃していること、子ども時代の虐待、暴力やジェンダー不平等を容認する態度などがある。

- ・収入の高い環境の場合には、学校教育プログラムが若い人々の人間関係における暴力（あるいはデートにおける暴力）を予防する効果がある可能性が立証されている。
- ・収入が低い環境の場合には、ジェンダー平等トレーニングと結びついたマイクロファイナンス、ジェンダー不平等への対処や人間関係でのスキルの地域指導など、女性の経済的社会的な力を高める戦略が、親密なパートナーによる暴力を減少させることに効果的であったことが分かっている。
- ・対立、対決の後、あるいは引き離しの状況によっては、現状の暴力を更に悪化させ、親密なパートナーによる暴力のように、女性に対する更なる暴力を生じる可能性がある。

© World Health Organization

この文章は、日本 WHO 協会が WHO のメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014 年 3 月に WHO 本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含め WHO ホームページでの原文をご確認ください。

Violence against women ファクトシート原文は [こちら](#)